

待ちに待った給食
ごはん 麴汁
さばのみそ煮
ごま酢あえ

はやぶさ2

昼休み、3年生の教室をのぞいてみると、どのクラスも、時間を惜しんで勉強している人の姿が多い。3年生に負けじと、ムネラン千会長は「はやぶさ2」について調べ学習を行った。

「はやぶさ2」のミッションは、「小惑星サンプルリターン」である。具体的には ①小惑星のサンプル採取 ②小惑星の地下物質の採取 ③地球に持って帰ってくる の3つである。2018年6月、「はやぶさ2」に、想定外のこと起きる。接近した小惑星リュウグウが岩石だらけで激しい凹凸があり、「はやぶさ2」が着陸できないのである。しかし作戦を練り直し、2019年2月、半径6mのすき間を見つけ着陸に成功し、リュウグウの砂を採取する。ここで、「はやぶさ2」は大きな決断を迫られる。リュウグウの砂を持ち帰るだけにするのか、再着陸し地下にある物質の採取にチャレンジするかである。小惑星の砂を採取するだけでも大きな成果である。さらにもう一步、チャレンジするのか。地下物質は太陽の光が当たらないため、小惑星ができた当時の状態をそのまま残しているという。もし、この地下物質が採取できれば、46億年前の地球が生まれた謎が解き明かされるかもしれないのだ。しかし、硬い岩にぶつかり



地球は、今から46億年前に誕生したと考えられています。地球のような大きな惑星は生まれた時に1度溶けてしまい、それが冷えて固まって現在の惑星になります。ですから、地球のような大きな惑星を調べても、46億年前の物質については情報が得られません。ところが、リュウグウのような小さな天体では溶けていないので、46億年前の物質がそのまま残っていると考えられます。リュウグウには水を含む鉱物があることが確認され、地球の水の成分と比較することで、地球生命（水）の起源に迫ることができると期待されています。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の津田雄一プロジェクトマネジャーは、「チームとしてプロジェクトを成功させるためには、1人1人が自分のポジションでベストを尽くすこと」、さらに「自信を持ちながらも過信との境を見極めることが大切。そのためには失敗の経験がないとダメ」と話していました。そして、「数々の制約がある中で、未知への挑戦や真理の探究を続け、ワクワクドキドキするような未来を創っていきたい」と、挑戦することの大切さを語っていました。

「はやぶさ2」が砕けてしまえば、貴重な小惑星の砂さえ地球に持って帰ることができなくなるのだ。安全か地下物質か? 「はやぶさ2」は、地下物質を選び再着陸に挑む。この時、「はやぶさ2」は異常を感知し急上昇を始める。この非常事態が、なんと幸運を生む。上昇した時にカメラがわずかばかりの平地をとらえたのだ。その地点にピンポイントで着陸し、地下物質の採取に成功する。2019年2月のことである。その後「はやぶさ2」は、小惑星・リュウグウで得たサンプルを、無事、地球に運び届けた。そして今、「はやぶさ2」は新たな発見をするため、小惑星「1998 KY26」を目指し、11年かけた宇宙への旅を続けている。